

タイトル：令和元年（2019）年度 研究セミナー（第20回）

日時：2019年12月21日（土）～22日（日）

場所：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所3階マルチメディアセミナー室（306）

「18世紀イスタンブルにおける宿所の所有関係」

岩田 和馬（東京外国語大学大学院）

昨年イスラーム教育セミナーに参加し、参加された先生方から多くの批判とアドバイスをいただき、日本各地の大学から中東やイスラームを研究対象とする同世代の学生と交流することができて大変有意義な時間を過ごせた。今年は、持ち時間がさらに長いイスラーム研究セミナーに参加することで、博士論文執筆に向けて、留学前に自分の研究を一度批判の目に晒したいと考え参加を決めた。

今年は私を入れて四人の参加者がいたが、いずれの方も博士論文提出を控えており、発表では非常に厚みのある議論を展開させていた。それに対して博士2年目の私の発表は拙さや不足部分が目立ち、研究における反省点も多いと感じた。報告の内容は、18世紀オスマン帝国におけるハン、船小屋、単身房という3種類の宿所空間の所有と管理の形態を荷役組合や船子組合などの同業組合との関わりを通して分析を行うというものであった。これは、同業組合が形成する社会経済関係の分析からイスタンブルにおける船着場の社会構造を分析する予定の博士論文の一部となる研究である。発表で扱った内容が非常に細かいものであり、十分に説明をすることができなかつたように思える。今後はこうした内容の発表をする際に幅広い研究分野の人々にわかりやすく説明する方法を頂いたコメントをもとに考えていきたい。そのほかにも多くのコメントいただくことができたので、留学中の史料調査と研究の発展に活かしていきたい。

また、セミナーには留学経験者も参加しており、懇親会や休み時間の今後留学を行う上で必要となる様々なアドバイスや、文書館の話など興味深いお話を聞くことができたことも貴重な経験であった。また、都市研究をする参加者もいたため、都市社会を捉えていく上で必要な分析視角などについて有意義な議論ができた。

先生方や他の参加者の方々のおかげで報告だけでなく懇親会などの場面でも非常に有意義な2日間を過ごすことができた。また、他の参加者と比べても研究の段階がかなり違うにもかかわらず、参加を認めていただき、非常に勉強になった。セミナーを主催して頂いた先生方と事務局の皆様にご礼申し上げます。